



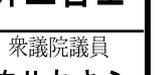
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士

砂田市議9期目の当選

多数激戦の小矢部市議選 日本共産党 悲願の複数議席ならず

定数16に21名が立候補した小矢部市議選は8月5日投票で行われ、日本共産党の砂田喜昭市議は9期目の当選を決めたが、残念ながら新人の堀内あきよ氏は議席に届きませんでした。日本共産党は複数議席の実現で、市民の願いを実現する力をパワーアップし、国政にもはつきりものが言える議会を目指して奮闘しました。

笠井あきら衆院議員・日本共産党政策委員会責任者が7月3日の演説会に続き、8月4日最終日にも応援に駆けつけました。告示日の7月29日には藤野やすふみ衆院議員、8月1日には井上さとし参院議員、3日には武田良介参院議員が入り、ウンと誤魔化しの安倍政治への審判を下し、日本共産党の2議席実現を」と訴えました。

日本共産党の得票は、1437票、得票率8.01%でした。悲願の2議席には届きませんでした。昨年、衆院比例得票605票(得票率3.7%)の2.4倍を獲得しました。これは20年前、1998年に複数立候補した際の得票1578票、得票率6.53%に比べ、投票総数(20年前24,338票、今回18,108票)が6、200票余も下回るも、得票率では1.48ポイント上回りしました。

公約実現へ決意新たに

石動駅前
砂田、堀内両氏



投票日翌日6日朝、日本共産党は砂田市議、堀内あきよ氏が石動駅前街頭に立ち、選挙結果を報告し、市民の皆さんのご支援に感謝するとともに、掲げた公約の実現を誓いました。

選挙結果を受けて、市民の間から

も砂田さんが当選したのはよかったですけれど、共産党2議席ならなかったのはたいへん残念でした。「これからがんばって」との声が多数寄せられています。共産党2議席で市政や、議会をもっと改革して欲しいとの期待が強いことを示しています。

順位	候補者名	党派	得票数
1	沼田信良	自	1,445
2	石田よしひろ	自推	1,307
3	吉田康弘	自推	1,195
4	竹松豊一	自推	1,138
5	福島正力	自推	1,022
6	藤本まさあき	自推	1,007
7	山室秀隆	自推	1,006
8	谷口巧	自推	999
9	中田まさき	自推	893
10	砂田喜昭	共産	883
11	よしうら英昭	自推	825
12	林のぼる	無	813
13	かとう幸雄	自推	804
14	出合かずひと	自推	778
15	しまだ幸恵	自推	748
16	白井中	自推	748
17	山田よしはる	自推	742
18	かたおか司	自推	615
19	堀内あきよ	共産	554
20	宮西さちお	無	220
21	中野るみこ	諸派	199

有効投票数	17,941	
無効投票数	167	
投票総数	18,108	70.39%
うち期日前	5,462	21.23%
当日有権者数	25,727	

核兵器禁止条約を採択 小国が核保有国の反対を押し切って

皆さん、終戦後73年、世界は大きく変わりました。昨年7月7日、国連では、米、中、英、仏など核兵器保有国の猛反対にもかかわらず、核兵器禁止条約を採択しました。大国の反対を押し切つて、小国がものを決めるなど、戦前では考えられないことでした。

ヨーロッパの小国と戦後独立した100か国を超える国々が頑張ったのです。先の戦争で命を落とした数千万人の人々の思いが、民主主義の力強い前進という形で、生まれ変わったのだと、重く受け止めているところです。

ヒバクシャの体験により、人類を救う(ローマ法王) 「がれきの下から薄明かりを目指して這い出した」(サーロ節子さん)

運動の発端は、日本のヒバクシャたちです。ヒバクシャはただの原爆被害者・生き残りではありません。平和を求めて運動する「公共の良心」と、条約の前文に書き込まれています。

人類を救うため、これからも被爆の実相を語り伝える使命があります」と述べました。被爆者の一人、サーロ節子さんはノーベル賞授賞式の演説で「死に向かつて進め」と申しました。彼女は下敷きになった家のがれきの中から薄明かりを目指して進み、はい出しました。

いま向かつて進むべき光は、核兵器禁止条約であり日本国憲法ではないでしょうか。小矢部平和委員会では、戦争で亡くなった数千万の死者を追悼するとともに、世界平和と民主主義の前進のために、いっそう精進することを申し上げまして、原爆の日の訴えといたします。

広島に原爆が投下されて73年目の8月6日、小矢部平和委員会は石動駅前街頭から次の訴えをしました。

「光に向かって進もう」 ヒバクシャがノーベル賞授賞式で演説